

活動報告書

報告者氏名：高橋麻理

所属：別府支援学校石垣原校

記録日：24年2月13日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部2年生（14歳）
- ・障害名 先天性ミオパチーによる体幹機能障がい
- ・障害と困難の内容
 - ・移動 電動車椅子を使用。電源、バッテリーが必要
 - ・手指機能 指先の力が弱い 腕が上まであがらない
 - ・発話 呼吸器をつけているので発声が不明瞭で聞き取りにくいことがある
 - ・その他医療的制約(呼吸器・食事) 常時呼吸器をつけているので移動に制限がある
トイレや吸引の際には介助が必要である
食事はミンチ食など誤飲に気をつけて食べる必要がある

【活動目的】

- ・当初のねらい 本人は車椅子や呼吸器を常時必要とする、活動に制限のある状況であるので、情報検索により、趣味を広げ、さらに楽しみを見いだすことがiPadによって容易になるであろうと考えた。
- ・実施期間 平成24年度6月～3月まで
- ・実施者 高橋麻理
- ・実施者と対象児の関係 担当教員

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況 ・パソコンなどの情報機器には関心があり、サッカーの試合の情報を得たり、テレビでは見られないサッカーの試合を見たりして興味をもって取り組むことができていた。
- ・活動の具体的内容
 - ・二学期の中旬から総合的な学習の時間の15分程度を使って情報教育担当の教師に習いながらいろいろな使い方を学習した。
 - ・clip boxのアプリにインターネットの情報を落としてスムーズにサッカーの画像や音楽を見れるようになった。
 - ・地図のアプリを使って自分の家やいる場所を検索して、付近にどんなものがあるか調べることができるようになった。
- ・対象児（群）の事後の変化
 - ・呼吸器の充電時間の関係でベッドサイドから動けないとき、ベッドの上から降りられない（移動手段がない）時に情報検索をするのに大変役だった。
 - ・学校と病棟の行き来という生活スペースの中でiPadを使って外の世界と通じるといことは本人の楽しみを広げ、話題や話す内容も少しずつ増えていった。
 - ・調べたいと思えば場所と時間を問わずすぐに情報を手に入れられるので本人の活動も積極的になった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき
 - ・当初はカメラ機能を使って、日々の景色の撮影を楽しんだり、その後編集したりといった活動を考えていたが、カメラ機能がついていなくて当初の目的とは違ってきた。
 - ・本人の取り組みの範囲内では、情報検索などに役立ったが、機能をさらに使いこなすためには教師の研修の時間と、それを学習する時間の確保が必要だと思った。
 - ・本来は技術の授業でしかパソコンなどの機器を使う機会がなかったが、実際にiPadを使用することで機器を身近に感じ、また本人も容易にあつかうことができ、勉強以外にできることの範囲が広がり、自信をつけていった。